



ねこの混合ワクチン

ネコちゃんの命をおびやかす病気で効果的な治療法がないものに、ウイルスによる伝染病などがあります。感染後、発症すると急激に悪化し、死亡することもあるこの病気からネコちゃんを守る効果的な方法はワクチン接種による『予防』です。

ワクチンはウイルスや細菌の毒性を弱めたもので、侵入した病原体を攻撃する『抗体』をネコちゃん自身に作らせる働きをします。抗体は感染症に対する『自分で作るくすり』のようなものですが、感染してからワクチンを接種しても効果はなく、健康なときにワクチンを接種して『抗体』を準備しておく必要があります。

当院では2種類の混合ワクチンを取り扱っております。

■ 3種混合ワクチン

以下の3種類のウイルス感染症を予防します。

《猫ウイルス性鼻気管炎》

40℃以上の発熱、くしゃみ、鼻水や目やにがひどく、食欲がなくなります。子猫では特に感染しやすく、死亡することも多い病気です。

《猫カリシウイルス感染症》

猫ウイルス性鼻気管炎に似た症状です。口の中にも炎症がおき、潰瘍ができます。

《猫汎白血球減少症》

食欲がなくなり、高熱が出て、嘔吐や下痢が激しくおこります。脱水症状のため、子猫では非常に死亡率の高い伝染病です。

■ 5種混合ワクチン

上記の3種類のウイルス感染症に加え、猫白血病および猫クラミジア感染症を予防するためのワクチンです。

血液検査を行い、すでに猫白血病に感染していないか確認してから接種します。

《猫白血病》

唾液中に多量に含まれているウイルスが、ケンカの咬傷や毛づくろいの際に侵入して感染します。同じ食器を使うことでも感染します。

貧血や腫瘍性疾患、歯肉炎などさまざまな症状を引き起こし、数年以内に死亡する危険性が高い病気です。

《猫クラミジア感染症》

感染猫との接触などでうつる細菌感染症です。結膜炎がおもな症状ですが、くしゃみ・鼻水・咳や肺炎を起こし、重症になると死亡することもあります。

初年度は確実な効果を得るために、ワクチンを1か月の間隔をあけて2回接種します。

子猫では生後2か月と3か月に接種すると高い予防効果が期待できます。

なお、ワクチンの効果は時間が経過するとしだいに低下していくため、1年ごとに追加接種することが必要です。

ワクチン接種の予約は不要です。体調の良いときにご来院ください。

